



㊦ ポーリング調査を強行しようとする防衛施設局側の船（奥）に対して、必死の説得・阻止行動を繰り返す抗議船（手前）

㊦ 作業を阻止しようと、必死になって作業船にしがみつクカヌー隊



辺野古の基地建設は、1996年のSACO（沖縄に関する特別行動委員会）最終報告の中で、沖縄県宜野湾市にある普天間基地を返還する代わりに代替基地として建設計画が持ち上がりました。現在は、事実上の基地建設着工であるポーリング調査が進められようとしており、座り込みの闘いにより阻止し続けています。

## 辺野古ポーリング調査阻止行動 杭は1本も打たせていない！ 今やれば基地建設を止められる！

米軍基地建設に反対する座り込みは、10月19日で半年を迎えました。現在は、座り込みに加え、9月9日から始まったポーリング調査を阻止するため、連日のように海上での攻防戦が続いています。

現在、防衛施設局は、「作業船」1隻に2～3隻の「警戒船」を1組とした船団を2～3組海に出し、ポーリング調査の準備作業である潜水調査や磁気探査を行おうとしています。これに対し、座り込み参加者らは10艇前後のカヌーと4～5隻の小型船（阻止船）を使い、阻止行動を展開しています。阻止船は、猛スピードの作業船に伴走し、「調査を止めて」と訴え、さらに先回りをして調査地点に居座り、説得活動を繰り返します。また、カヌー艇も調査地点を守ったり、作業船にしがみつきながら必死で作業を止めています。さらに、潜水し調査する施設局側のダイバーに対し、こちらからもポンベを背負って海に飛び込み、海中での訴えも行われています。この決死の阻止行動により、これまで施設局の作業を相当程度遅らせてきたことは大きな成果です。ポーリングの杭もまだ一本も打たせてはいません。

しかし、作業の遅れに焦った施設局は何が何でも作業を進めようとする姿勢を見せ始め、カヌー艇、阻止船への対応は日に日に乱暴さを増しています。これに加え、高波の中での命がけの攻防戦で、阻止行動隊の疲労はピークに達しています。これから冬に向け、辺野古の闘いはさらに厳しい局面を迎えることとなります。今、辺野古では、海にも陸にも多くの人と、船のチャーター費を含め活動を支えるカンパが必要で、そして、何よりも、全国的な世論の高まりが必要です。ぜひ、大阪行動に参加してください！（松本）



漁港の岸壁では、施設局にチャーターされて出て行く漁船に対して「一緒に海を守りましょう！」などの説得のアピールが繰り返される。

沖縄島



那覇

辺野古

辺野古の海は「自然環境の厳正な保護を図る区域ランク1」に指定され、天然記念物のジュゴンが住んでいます。ジュゴンだけではなく貴重な海藻、サンゴ、海ガメ、魚介類などが多く生息しています。

